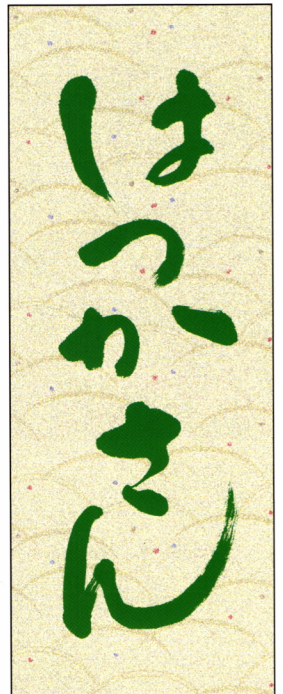


～天津むかしばなし その3～

天津発祥の地と思われる 清水谷



天津発祥の地と思われる清水谷



第 30 号

発行

天津地域振興協議会
総務企画部編集委員会

印刷

米子ワークホーム



清水谷から眺める景観



7つあった古墳の中の1つ（忠霊塔）

ふるさと交流センターのある周辺を清水谷遺跡といい、縄文期から室町期にかけて遺跡が数多く出土しています。縄文土器や弥生時代の住居跡、古墳群からは棺も出土しています。縄文期の天津平野は海で母塚山の麓、清水が湧き出る谷からは遠くに大山が見える素晴らしい立地、狩や漁、作物を手安く得られた良い生活を人々はしていたと想像します。

中世に入ると、都と出雲をつなぐ官の道古代山陰道が清水谷の下を通り、国の防衛の砦を作るために古墳を崩して谷底を埋めて作った室町時代の住居跡が清水谷から出ています。

江戸の初期まで、谷川坂根の地名は無く福成三区は柏尾の郷、中心は清水谷の南の谷で会見郡の大庄屋生田半平衛の屋敷がありました。谷川と坂根は柏尾の分村になります。

古代人も見てきた清水谷からの素晴らしい眺望、ここが天津発祥の地ではと思われまます。

（記 野口 隆資）

あまつのお店紹介

種醤油店

今回は、上阿賀にある「種醤油店」さんをご紹介します。

種醤油店は、種温祥あつよしさんが店主の醤油店で創業一〇〇年以上の町内の老舗であり、三代目となる温祥さんが店を継がれてから五十年以上醤油作りに尽力されています。

もとは、旧法勝寺街道（現在の国道より法勝寺川の土手側）で「こんにゃく店」を営まれていた



ようですが、醤油店を出す際に現在の場所に移ってこられたようです。



醤油店では、現在「さしみ」「濃口」「うすくち」と三種類の醤油を製造されており、ゆうらくや祥福園をはじめとする町内の施設やラーメン店、焼肉屋といったところへ商品を販売されています。皆さんも、もしかしたら種さんの醤油を口にしてもらえるかもしれませんね。

現在はスーパーなどの小売店では販売されておられませんが、ご連絡をいただければ、個人販売もされるそうです。永年蓄積されたこだわりの味を試してみられませんか。

〈連絡先 0859-6612070〉

(記 桑名 俊成)

あまつっ子

境の子ども会



集合写真

今回は、境の子ども会を紹介します。

境の子ども会は、二年生一人、三年生一人、四年生二人、六年生三人、合計八人です。

例年の活動は、歓送迎会、公民館の草取り、リサイクル活動などです。今年は、ふれあい演芸まつりで紙しばいをしたり、敬老会で「上を向いて歩こう」を合唱した



運動会 応援合戦

りしたそうです。

天津地区の運動会では、今年初めて応援合戦に参加されました。ポンポン作り、練習、本番と子ども会だけでなく、保護者、地域の方にも協力していただき、とても盛り上がったそうです。

近々、お楽しみ会とクリスマス会を実施予定だそうです。

少人数ですが、元氣いっぱい、仲良く活動しておられます。

これからも、そのパワーをいかし、境地区を盛り上げていきたいと話されました。

(記 亀尾 秀樹)

あの人この人
大塚 明夫さん(清水川)



今日は、清水川の区長や館報あまつの編集長を長年勤められた大塚明夫さんにお話を伺います。

大正十五年生まれ、今年の十一月で八十九歳になられました。編集の仕事について苦労話などをお聞きしました。

「はつかさん」の前身である「館報あまつ」と「南部シルバーだより」、老人クラブ連合会会報「ふれあい」の編集を行い、のべ三十年間勤めました。もともと書くことが好きで、編集部員のためなどしていました。編集するために朝日新聞の記者が携帯している『用語の手引き』等を買って参考にしました。

各戸に配布するので、読む人のためになるように心掛け、発行月が近くなると編集委員会を招集し、企画、原稿依頼、取材、レイアウト、デザイン、原稿校正、入



スクラップノート「いずみ」

稿と多忙な作業の連続でしたが、多くの人に読まれると思いエネルギーを発揮してきました。今は暇になったので自分史をノートに書いています。

また編集の参考にするためスクラップノート(B5 五十枚)を「いずみ」と表書きして、新聞・雑誌の記事で主だった内容を切り抜き添付し現在三十二冊になりました。

編集の仕事を辞めても「読む書く」ことはボケ防止に欠かせないと思っています。

と精力的に語ってくださいました。

いつまでもお元気で。

(記 田中 早栄)

どげしちゅー

丸山 照子さん(境)

今回は境の丸山一明さんの長女啓子さんと、三女礼子さんにお話を伺いました。

今年の九月には一明さんの連れ合いである照子さんが米寿を迎えられたそうです。照子さんは三人の娘さんご夫婦と、七人のお孫さん、そして七人のひ孫さんに囲まれお祝いをされたそうです。(写真)

お孫さん達からのプレゼントは



子どもが中学を卒業すると地域との関わりが希薄になりがちです。そこで、あまつ住民の「最近どげしちゅーか紹介していい」という企画をしました。

『毛糸』。これは照子さんの趣味が編み物ということで、マフラーを編んでもらうために用意されたものだそうです。

「みんな順番待ちしています。」と誇らしそうに話をしてくださいました。今の時代、たいいの物は手に入れることは簡単にできますが、このマフラーはお金では買えないかけがえのないものです。寄る年波には勝てず、身体の衰えはあるものの、時間を見つけては孫達のためにマフラーを編んでおられるそうです。編みあがったマフラーは「これ、おばあちゃんが編んでくれたんだよ。」と一生の自慢の品になることでしょう。

毛糸が紡ぐ家族の絆、大切な思い出の品ですね。



(記 本田 節子)

特集：母塚山から望む大山の四季 ～大山の冬景色～



撮影場所：母塚山展望台

撮影提供：柄木孝志（からきたかし）

写真家の柄木さんにご協力いただいて、母塚山から眺める大山の四季を紹介しています。

全国を駆け回って活躍されている柄木さんに、今回は九州、沖縄出張の合間にお話を伺いました。

今回はいよいよ冬。雪化粧した大山の雄大な眺めは地元民にとっても特別な風景ですが、冬の写真撮影は大変ではないでしょうか。

「以前二駆の車で母塚山に登った時には何度か※スタックして大変な目にありました（笑）。個人的には慣れていない方の単独運転でのアプローチはやめた方がいいと思います。」

それでも真冬の深夜、夜明け前、極寒をものともせず、精力的に撮影をされていますが冬の大山の魅力はなんでしょうか。「大山が雪をかぶると格段と美しさと風格が増します。夕暮れの赤大山や月明かりに浮かぶ大山など、雪の白が何種類にも変化し浮かびあがる様は、私自身一年で一番好きな季節です。」

※スタックリタイヤが雪に埋まって動けない状態

（記 秦 博志）

編集後記

十一月十五日、第二回天津歴史探訪ウォークに参加しました。天津交流センターを出発し、法勝寺川土手から賀茂神社、旧電車道を通り、旧天津駅を最後に約七キロ三時間のコースでした。

時の流れが人々の生活を変え、風習が変わり、山頂にあった神社は今の場所になり、その面影を残しているところが少なくなっていることは淋しい感じがしました。

大水害による法勝寺川改良工事で、大量の土砂を必要とするため山を掘り崩した跡や、トラックで運搬した跡や、走っていた旧法勝寺電車の旧大國駅、旧阿賀駅の跡に当時の思いを馳せながら説明を聞きました。賀茂神社の土俵には何段にもわたる観覧席があって、大勢の参拝客が熱気あふれる取り組みに声援を送っていた往時がしのべれ感慨深いものがありました。何気ない風景の中にも、先祖の残した大切なものがたくさんあることを発見した楽しいウォークでした。

「はつかさん」も埋もれた歴史を掘起こし、再発見できる誌面にしたいと思っています。

（記 大塚 賢一）